

第四十二回古民家歴史部会歴史探訪

「横浜開港150周年海防三浦半島の歴史を探る」

原本 朗 起稿

「V」川越藩大津陣屋跡・坂本龍子眠る信楽寺・大津の幕末海防を探る

平成21年9月3日(木)(集合京急北久里浜駅 改札前10時厳守)

行程；京急北久里浜駅→根岸交通公園→千片神社跡→馬門山墓地→庚申塔→牛宮神社→風神地蔵尊→海軍射撃場跡→川越藩陣屋跡→大津諏訪神社→信誠寺→信楽寺→宿守稻荷→京急大津駅。

- 1・根岸交通公園(自転車など乗って交通ルールを学ぶ市内唯一の交通公園・桜名所・WC・北久)
- 2・千片神社跡(6代衣笠城主三浦義村館跡・祭神義村関東大震災後諏訪神社に合祀・根岸町内開館裏に倒壊した鳥居一部残る)
義村死後370年余経た慶長18年(1613)創建された。義村は※御成敗式目の成立に貢献し、文武を兼ねた武将でした。
※1；(ゴセハイキク・貞永元年(1232)北条泰時が※2承久の乱後当面する政治・法制の諸問題に対処する為編纂した51ヶ条の法典。室町時代に至まで武家の根本法。江戸時代には習字手本として民家に普及した(貞永式目)。
※2；承久の乱；承久3年(1221)鳥羽上皇が鎌倉幕府の討滅(トウツ)を図って敗れ公家勢力の衰微(スビ)，武家政治の強調を招いた戦乱。
- 3・馬門山墓地(マモンヤマ)
明治15年(1882)当時の海軍省が、戦死、殉職した海軍軍人の埋葬地として開設した。鎮守府の主催で年1回、神式と仏式を交互にした式典が行われた。軍艦「河内」や「筑波」等と運命を共にした、海軍軍人の英霊1592柱埋葬されている。
昭和26年大蔵省から市に譲渡され市民の墓もある。毎年5月墓前祭行われる。
- 4・庚申塔(東京カセー裏・庚申信仰平安時代に始まり江戸時代多くの庚申塔、路傍建立信仰定着と言う)
16基の庚申塔、享保9年(1724)から昭和47年迄に建てられた塔がある。昭和55年、63年、平成8年庚申講催したとの記もある。
- 5・牛宮神社(創建不詳・牛に感謝・例祭9月15日・境内社伏見稻荷社祠・収穫の神・井田の地神様)馬頭観音像(増田家敷地内・牛馬感謝・無病息災・忿怒相宝馬頂き慈悲教化し難い衆生を仏が怒りの姿救い上げ様とする観音像・昭和30年代まで高梨・増田・菅野3牧場があった)
池田・根岸・大津馬持ちの人達明治9年(1876)建立。
- 6・庚申塔(悪疫、災害退散・現世安穩・来世安楽・五穀豊穡・青面金剛主尊、日月瑞雲三猿刻・19基天和
元年1681、大正元年1912青面金剛刻像塔・庚申信仰)
- 7・風神地蔵尊(風邪に靈験・大正末頃建立・地元篤志家現在地に勧請と言う)
- 8・大津公園(海軍射撃場跡昭和26年大蔵省から横須賀市に譲渡・テニスコート等スポーツ施設・WC・桜)
- 9・天神坂(大津町町内会館・衣笠・葉山・逗子・鎌倉・大船・東海道戸塚宿への重要道・三浦氏鎌倉道・庚申塔左延宝6年1678、右元文5年1740廃寺青蓮寺名も)
大津町5丁目から三春町5丁目への坂道・途中に天神社があった諏訪神社に合祀・古東海道。
- 10・愛染稻荷(クロガネモチ名木樹齢推定400年)
天神坂付近に住む七兵衛が稲作豊作祈願江戸加賀町愛染寺から勧請、文化14年(1817)建立。
- 11・大津諏訪神社(大津鎮守・信州諏訪大社勧請・祭神建御名方命・諸行開発、武勇神・五穀豊穡・学問・医薬・例祭8月・琴平神社・稻荷神社・菅原道真1千年祭記念歌碑・奉納相撲、下宮田、葉山、森戸、三浦相撲知られる・天神社狛犬、手洗い鉢)
古くは平貞盛、三浦大介義明、向井将監(シヨウケン)が信仰したと伝えられ、戦前軍部の参詣も多かったと伝う。現社殿大正14年(1925)改築。大津村10社が1村1制の行政指導により諏訪神社に合祀。
- 12・信誠寺(シジヨウジ・浄土真宗京都本願寺末・嶂谷山・本尊阿弥陀如来・山門前江戸湾海防防備川越藩土墓・蓮如上人逆さ差し杖から枝葉繁茂したと伝う逆さ銀杏大木乳出信仰・初代三浦郡長小川茂周(シゲカ)墓・幕末から明治初期大津小学校前身郷学校)

鎌倉の僧明祐が東国遊化の蓮如上人の巡化にあい、宝徳2年(1450)堂宇建立再興・中興を明祐(寛正元6年1465寂)とする。客殿前大銀杏は蓮乗上人巡教の際持ってきた杖を逆さに差したら、そこから枝葉が繁茂今日の大銀杏になったと言う。現本堂昭和38年再建。竜灯木古跡；海中から火の玉が飛んで来て木の梢で燃え続けたのを人々が竜灯と呼び大津の港の目印になったと言う伝説。

川越藩；幕末期黒船来航以前日本沿岸には、度々異国船が現れ緊張が高まった。幕府は江戸湾沿岸の警護を大名守備で固め、川越藩主松平大和守に観音崎・走水・大津地域の海防を命じ、天保14年(1843)大和守は大津に陣屋を造営した。川越藩の任期は10年間で、藩士の赴任に家族の同行を許し、陣屋内に同居させた。当寺過去帳によれば、赴任中に亡くなった藩士6名と家族は計28名で門前にその墓。左端に大津の寺子屋岡田拙斎先生の墓。藩士らの墓は他に貞昌寺。走水円照寺、大泉寺にある。

- 13・信楽寺・坂本龍子(「リョウ」の墓(シギョウジ・浄土宗鎮西派光明寺末・至心院・本尊阿弥陀如来、薬師如来運慶作正観音菩薩行基作・地藏菩薩・三浦地藏27番札所・046-836-3731)開山は永正元年(1504)証誉(永正3年2月15日1506寂)と言う。現本堂方形伽藍造り、八間四面で寛政4年(1792)改築と伝う。「贈正4位下(シヨウシイゲ)坂本龍馬之妻龍子墓」(裏面永代寄付明治39年1月15日没享年六十有六諡昭竜院月珠光大師。大正三年八月十六日実妹中沢光枝建立)明治維新の志士、日本海軍の先駆者坂本龍馬。龍子は嘉永3年(一850~1906、56歳没・名は「りょう」又「とも」と呼ばれ伏見寺田屋の頃は「お春」と呼ばれていたと言うが不明)京都町医者(シヨウシイゲ)の娘に生まれ、慶長3年(1867)11月、夫龍馬が京都近江屋で京都守護職輩下見廻り組み与力の乱入斬殺(33歳)されて以来、各地を転々としたのち、呉服商人西村松兵衛と再婚し(西村ツル)、明治8年(1875)横須賀市内米が浜の長屋に移り住み、明治39年(1906)1月に亡くなるまで30余年横須賀で送ったと言う。大正3年(1914)夫や有志の尽力で、この寺に墓碑が建立された。墓石は海軍工廠(ウツヤ)が寄付したドック建設用のもと言う。

保久利(ボクリ)地藏；99歳の白寿長命で亡くなったお婆さんがおりました。最後まで病むことなく、お天気が良ければ田畑に出、雨の日は縫物に励みなどとても丈夫でした。信心深いお人柄で、何時も、仏を念じ粗衣粗食に甘んじて、廻りの人達に尽くした姿が、まるで、生ける地藏菩薩の様でありましたので、一周忌にあたり建立されました。地藏菩薩とは、様々な悩み苦しみにも代える私達を救ってくださる菩薩です。保久利とは、この様な利益を永久に保って下さると言う意味です。境内案内板記。

- 14・大津陣屋跡(天保14年1843江戸湾防備川越藩主松平大和守建設、面積9800坪御殿、稽古場・事務所・馬場など・多いときで1500人詰めていた、その後肥後藩、佐倉藩、浦賀奉行所所管、明治元年1868新政府取り壊し・県立大津高校から大津3丁目民家にかかる一帯、大津中学正門脇石橋残すのみ・大津陣屋石橋遺構一時横須賀刑務所正門前官舎傍から移設)
- 15・原稻荷(創建不詳・社殿明治34年頃(1901)推定・例祭2月10日大釜沸かし舞奉納無病息災湯立神楽・農産物豊凶占う掻き湯神事)
- 16・砂坂地藏尊(2体地藏尊・イボ取地藏・子育て地藏・六地藏レリーフ安置)
- 17・大津館跡(標識無)

明治中期、浦賀の石渡眞三郎らにより、大津海岸(現大津町1丁目)日本建築屈指の避暑旅館(敷地1500坪瓦葺き2階建て大小80余り客室、人力車、乗馬繋留地を備えていた。皇族方、志賀直哉、有島生馬など文人達、外国人も多く訪れ、隆盛を極めた。後、東京鯉問屋買い取り「勝勇館」。明治時代の日本博覧図・関東編銅板画に載ったが、今は往時を残さない。

- 18・宿守稻荷(スミ)・祭神伏見稻荷奈迦御魂命カミナリノミコト・例祭2月初午)正徳3年(1713)里人が宮ヶ谷戸に勧請、昭和5年京急急行電鉄(当時湘南電鉄)が開通時、京急大津駅脇に移還(移設)された。

第42回行程案内図

